

-Index-

映画「ヒゲの校長」インタビュー<第3弾>
第11回聴覚障がいのある幼児・児童・生徒の担当教員研修会
第21回養護教諭セミナー
チャレンジ！発音指導 ⑩



映画「ヒゲの校長」インタビュー<第3弾>

＼廣間ひで先生役／

堀谷先生に、ききました！

今号では、映画「ヒゲの校長」で、廣間ひで先生の役を演じた、堀谷留美先生（本校首席）のインタビュー記事を掲載します。

チーム高橋の一員である、廣間ひで先生の役どころを教えてください

高橋校長先生と一緒に手話を守り、指文字を考案した、いわば「チーム高橋」の一員です。本人も中途失聴者で、大阪市立聾唖学校で国語を指導しておられました。童話を書いたり、短歌を詠んだり、子どもたちと一緒に詩文を作ったりされたそうです。

役作りで特に意識されたことはありますか？

廣間ひで先生は素晴らしい方なので、自分が演じるなんてとてもとても…と、映画出演のお話をいただいたときに思いました。でも、「当時の学校には、ひで先生や藤井光沢子先生（欧州を視察した藤井東洋男先生のお姉さんで、聴覚障がい教員）のほかにも、多くの女性のきこえない先生がいらしたのではないかと。歴史の中に埋もれ、名が知られることもなく子どものためにがんばってこられたのでは」と思います。そこで今回は、無理にひで先生の真似をしようと思わずに、「当時、学校でがんばっていたきこえない女性の先生」を具現しようと思いました。結局、演技というより地のままでやったという感じです（苦笑）。

指文字の良さ



その場ですぐ漢字の読み方が表せる

廣間ひで先生の人物像や魅力について、教えてくださいませんか？

とにかく才女というイメージです。当時の女性では最高教育機関の東京女子高等師範学校（現在のお茶の水女子大学）を出られ、高等女学校の教師になられました。その後失聴して、聾学校に赴任されたようです。きこえない子どもに心底から寄り添われ、手話を尊重した教育をされたという文献が残っています。

ひで先生の若い頃は、大正デモクラシーたけなわ、いろいろな先進的な思想に触れる機会が多かった時代です。そこで、ひで先生の子どもの言葉を尊重する下地が築かれたのかなと想像したりします。また当時の社会は、女性や障がい者が自立、自活することは受け入れられ難い時代でした。そのような中、ひで先生は働く女性として、障がい者としてご自分の道を切り開いてこられました。お写真を拝見すると、控えめながらも芯の強さが伝わってくるようです。



撮影現場でのエピソードなどがあれば、教えてください。

きこえる人ときこえない人とで一緒にやりますので、そのあたり、手話のありかたや、きこえない人の気持ちや感覚について、何回か議論になりましたね。きこえる監督さんたちは「（見栄えするから）このシーンで手話を入れてほしい」というけれど、きこえない私たちは、「ぶつこんな状況では手話はしない」と言ったりして。

でもいい意味でのぶつかり合いでした。お互いに議論したり、折り合ったりしながらの撮影でしたから、映画のテーマの一つである「多様性を認め、リスペクトしていく」ことを実践できました。絶対いい映画ができるものと信じています。

映画「ヒゲの校長」の見どころについて教えてくださいませんか？

ひで先生に限らず、当時の女性はずごかったなと思います。明治時代から昭和初期にかけての女性の地位は低かったといわれている分、女性はよりたくましかったのではと思います。

映画の登場人物で、高橋校長先生を支えた、奥様の醜子（しゅうこ）さんも、現在で言うシングルマザーでお子さんを育ててきました。高橋校長先生との再婚にあたっては「私は高橋潔と結婚するのではなく、大阪市立聾唖学校の校長と結婚します」と言われたそうです。その頃、高橋校長先生と学校は、手話を守るために孤立奮闘していましたので、奥様は、夫と学校を自分なりに支えようと決意されたのでしょう。芯の強さ、並大抵でない覚悟。現代の私たちも見習うべき「強さ」かもしれません。



時々出てくる川嶋貞子さんという女性も、篤志家の奥様で、醜子さんの志に共鳴して、大阪聾唖福祉協会後援婦人会を結成し、きこえない子どものためにいろいろと尽力しておられました。映画では、ぜひ、このような高橋校長先生を陰で支えた女性たちにも注目して、見ていただきたいなと思います。

廣間ひで先生は、国語教師として優れた実践を行った人物であると伺っています。どのような実践をされていたのでしょうか？

当時の創作童話をまとめた雑誌『赤い鳥』などの作品や、マザーグースなどの童謡を取り上げて、授業をしておられたそうです。実践記録もたくさん残しておられ、きこえない子どもたちの個性や感性の豊かさを信じている姿が窺えます。



また国語授業の目的についても「型にはまった手紙を書くことが巧だという…方針でやっていない」（一部抜粋）、「内容的に深く沈潜して文のもつ大意を捉え、文の味、色彩を感得させる」と述べておられました。これはまさに現代にも通用するものですね。

さらに実践記録では、国語と文法指導における手話の活用の効果についても触れています。副詞「からからと笑う」「すくすくと伸びる」の指導について、「表情又は

身振の現出する力の強弱、程度によって感じて知るという性質のものであり」「手話はより完全に副詞の文章に於ける使命を全くすることに忠実である」と書いておられます。国語指導における手話の可能性について強い信念を持っておられたのかと思います。

また「イソップ物語を勉強して、クラスで劇を行なった」そうです。おそらく教室には、豊かな手話の世界が広がっていたことでしょう。

「みみネット」の読者である、聴覚障がいのある子どもたちを担当されている先生方に向けて、メッセージをお願いします！

先生方が受け持っておられる生徒さんは、手話がなくとも話が通じる、音声のみで意思疎通ができる子どもさんが多いかもしれません。それでもまったく手話から切り離すのではなく、何かの折に、手話に触れさせるようにしてあげてください。

手話は一つの言語であり、子どもたちにとってかけがえのないことばです。子どもたちのこれからの人生には、いろいろなことが起きることでしょう。もしかすると今後聴力に変動があるかもしれない。補聴機器がいつ故障するかわからない。職場で「きこえにくいのであれば必ず手話

を教えてほしい」と言われるかもしれない。そのようなとき、手話は必ず子どもたちを助けてくれます。実際、新しい学校で友だちができなくて悩んでいる時、手話がきっかけで、友だちとの会話が増えたというケースも時々聞きます。

先生方にもぜひ手話の世界に触れていただき、そして子どもたちに伝えていただくと、とてもうれしく思います。

撮影現場では、きこえない人・きこえる人が、お互いの考えや思いを伝え合い、共有しながら、「多様性を認め、リスペクトしていく」ことを大切にされていたとのことですよ！映画の公開が楽しみです。

夏の公開講座①

第11回聴覚障がいのある幼児・児童・生徒の担当教員研修会

(定員 30名)

聴覚障がいのある幼児・児童・生徒を担当されている教職員の方々を対象にした研修会を開催します。全体講座では、本校の聴能担当より「きこえと補聴機器」をテーマに、お話しします。また、選択講座では4つの分科会に分かれて、各テーマに基づいた研修を行います。

<1>期 日 令和4年 **8月3日(水)**

<2>対 象 大阪市および守口市内の学校園、大阪府下の高等学校・支援学校に在籍する聴覚障がいのある幼児・児童・生徒を担当する教職員

<3>プログラム

- 13:00 ~ 受付
- 13:15 ~ 13:20 開会式
- 13:20 ~ 14:00 全体講座「きこえと補聴機器」



本講座では、聴覚障がい教育に携わる先生方に、ぜひ知っておいていただきたい「きこえのしくみ」と、補聴器や人工内耳などの補聴機器についての基礎的な内容を紹介します。

14:10 ~ 15:20 選択講座

A きこえにくい生徒の想い	B 発音指導	C 手話	D ことばを育てよう
長年、本校で中学生や高校生の指導にあたっての教員が、聴覚に障がいのある生徒の想いや生徒との関わりについて、お話しします。	発音のしくみや発音要領(母音・子音)について紹介しながら、実践研修をします。	学校園の生活によく出てくる単語を中心に手話表現を紹介し、一緒に練習します。	聴覚障がいのある幼児や児童が、ことばを獲得する過程について、教材を紹介しながら、お話しします。

15:30 ~ 16:30 実践交流会

第21回養護教諭セミナー（聴覚に関する知識と実践）

（定員 25 名）

養護教諭セミナーは、本校通学区域の学校園の養護教諭の先生方を対象に、聴力測定や聴覚管理、その他聴覚に関わる知識や技能、情報交換の場を提供することを目的に毎年夏季休業中に開催しています。今年度は耳鼻科医からの専門的なお話や、聴覚障がいのある教員の経験など、日頃なかなか聞く機会がない内容となっています。この機会にぜひご参加ください。

<1>期 日 令和4年 **8月4日（木）**

<2>対 象 大阪市・守口市内の学校園の養護教諭
大阪府下の支援学校の養護教諭

<3>プログラム

13:00 ~ 受付

13:15 ~ 13:20 開会式

13:20 ~ 14:10 講座1「養護教諭が知っておくべき耳鼻咽喉科の知識」

にしむら耳鼻咽喉科クリニック院長 西村 将人 先生



本校で耳鼻科校医を務めていただいている西村将人先生より、養護教諭の先生方に知っていただきたい耳鼻咽喉科に関する基礎的なお話をさせていただきます。また、医学的なお立場から今どんな話題が注目されているのか最新の情報も提供させていただきます。

14:10 ~ 15:20 講座2「きこえにくい子どもたちの育ち

—難聴児の発見から進学・就職まで—

難聴と診断された子どもたちはどのような機関と関わり、支援を受けて成長していくのでしょうか。難聴のある教員より地域の学校での学びや進学就職について、自身の経験をお話します。また難聴の子どもたちを取り巻く教育の概観について理解を深めていきたいと思いをします。

15:30 ~ 16:30 講座3「情報交換会」

16:30 ~ 終了後、聴能室見学・個別相談（希望者のみ）



共通事項（夏の公開講座①②）

- ・詳細については、各校園に案内を送付もしくはメール配信しております。
- ・添付の申込用紙に必要事項をご記入のうえ、郵送か逡送、またはFAXにてお申し込みください。
- ・締め切り **7月14日（木）必着**（定員になり次第、締め切ります）
- ・参加を受け付けた方には、FAXもしくはメールで連絡します。定員を超えて受け付けられない場合には、個別に連絡します。
- ・スリッパをご持参ください。

チャレンジ！発音指導 ⑪

オ音

今号では、オ音の発音指導について、ご紹介します。

口のあけ方は、両唇のあいだに人差し指や小指の先が少しは入り、軽くふれるぐらいです。「ア」と「ウ」の中間程度あけます。唇を丸めて声を出せばよいのですが、突き出しません。また、舌は、前からほとんど見えませんが、舌尖が軽く下歯茎の裏にふれ、舌の奥のほうはやや上がっています。

鏡を見ながら、口型を意識させて誘導していくことや、「おーい」や「アーオー」、「アオ」、「アオイ」、「オオイ」、「オイシイ」などの前後に母音のある語から誘導していきます。

「お」を「ほ」に誤る場合

「オ」は、氣息が多い（以前R3年5月号に掲載した発音のプロセスの②発声のレベルで声帯が閉じずに音をだしてしまっている状態）と「ほ」音になってしまいます。そのため、「おーきい」「ほーき」等の語からその弁別をさせながら修正します。

「オ」を「ア」と誤る場合

「オ」を「ア」と誤るのは、主に、舌面が「オ」の要領よりも「ア」に近くなってしまっており、奥舌の高まりが十分でないことが原因です。また、「オ」と「ア」は誤りやすいため、2つの音は切り離して、「ウ」から「オ」に誘導するほうが良いと言われています。

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森

〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31

TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800